

第2学年 国語科学習指導案

日 時：令和7年6月18日（水）
第5校時 13:30～14:15
学 級：2年1組 33 名
会 場：2-1教室
指導者：尾久第六小学校 2年担任

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成
～国語科「読むこと(文学的文章)」を通して～

1. 単元名 好きな場面の様子が伝わるように音読しよう

教材名「スイミー」レオ＝レオニ作 谷川俊太郎訳

2. 単元の目標

知識及び技能	・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知(1)オ)
思考力、判断力、表現力等	・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思C(1)エ) ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思C(1)オ)
学びに向かう力、人間性等	・登場人物の行動や会話に注意しながら物語を読み、感想をもったり、進んで考えを発表したりしようとする。

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 ② 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	① 教材文を読んで感想を交流し、見通しをもって学習を進めていこうとしている。 ② 場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、言葉を通じて他者と関わり合いながら、読み方がよりよくなるように粘り強く考えようとしている。

4. 児童の実態

本学級は、男子19名、女子14名、計33名の学級である。読書が好きな児童が多く、1年生のころから、絵本だけでなく、「やさしいお話」や中学年向きの本を好んで読んでいる児童が多い。本校の取り組みである年間35冊のトレジャー本を読み、感想を伝える読書賞も、昨年度は全員が達成している。

昨年12月に行われた全国学力調査では、国語の「物語を読み取る」という内容の問題で、目標値66.7%の

ところ学級平均正答率は59.4%であった。このことから、物語を読んでも、内容の大体をつかめていない児童が半数近くいると考えられる。

グループ活動については、ペアやグループで自分の考えを交流してきた。自分の思いをもっていても、うまく言葉で表現できない児童も、友達の考えを聞くことで、自分の考えに自信をもつことができるようになってきている。

5月に「ふきのとう」の物語文を学習した。声の大きさや話す速さを変えるとどのように聞こえるかを理解し、登場人物の様子を動作化することや様子がわかる言葉や文に気を付けて読むことで、場面の様子や登場人物の気持ちを捉えることができた。本年度は学芸会を控えていることから、物語を音読で表現する力を身に付けさせる学習活動は、児童が行事に対して自信をもって臨む力となることが期待できる。

生活科では、5月に1年生と学校探検の交流をした際に、絵本の読み聞かせを行った。学年の枠を超えて交流した経験を生かして、本単元では、1年生に物語の好きな場面を音読で発表するという学習ゴールを設定した。1年生という相手意識と音読を発表するという目的意識を明確にすることで、児童が主体的・対話的に学びを深めていけるようにしたい。

5. 単元について

本教材は、「スイミー」たちがまぐろに襲われるという「事件」と「みんなの力で追い出して解決する」という物語を構成する基本的な要素が分かりやすく揃っており、「スイミー」が体験したさまざまな出来事を追体験しながら読み進めることができる。比喩表現が多用されていることも特徴として挙げられる。場面の様子に着目し、登場人物の行動や会話を具体的に思い描き、物語の世界を豊かに想像する力を育てていきたい。

前単元「ふきのとう」において、登場人物がしたことや言ったことを確かめ、読み方を工夫して音読を発表した。しかし、叙述そのものをとらえきれていなかったり、自分の想像の世界を広げてしまったりしている児童の姿も見受けられた。そこで本単元では、学級全体で内容の大体をとらえた後に、自分が想像したことを伝えたり、相手の考えを聞いたりする対話的な学びをすることで、登場人物の行動や場面の様子を想像できるようにしていく。その際には、どの言葉からそう考えたのかなど根拠や理由を明確にして伝え合い、場面の様子や登場人物を結び付けて読めるようにしていく。そして、叙述を声に出して読むことで、場面の様子により着目し、具体的な登場人物の行動を想像させていきたい。

6. 研究主題に迫るための手立て

(1) 確かな知識・技能の習得

・音読指導の充実

場面の様子が伝わるように音読をする力を身に付けるために、補助教材「話す・聞くスキル」を活用して、読み方の工夫や効果を指導する。声の大きさ、読む速さ、音程、抑揚の付け方を中心とした音読のスキルを提示し、状況に応じた読み方を考える力を培う。また、文章を暗唱する活動を意図的に取り入れることで、児童が物語の世界に没入感をもって臨めるようにする。暗唱した文章には、スイミーシーンを貼り、児童が楽しみながら暗唱の活動に取り組めるようにする。

(2) 単元構成の工夫

・単元全体の目標の明確化

単元の導入では、「スイミー」の扉ページを作成する学習活動を設定する。扉ページには、題名、作者名、挿絵、気に入った場面とその理由をまとめる。作成した扉ページの内容から、児童と共に学習計画を作成する。「好きな場面を音読で発表する」という学習ゴールを明確にした上で、読み深めたい内容を基に計画を立てる。学習計画表は拡大して掲示し、グループごとの学習進捗を可視化しながら、児童が必要感に応じた学びを実現できるようにする。

・ワークシートの工夫

自分の好きな場面を選び、同じ場面を選んだ友達とグループになって挿絵に吹き出しを書く活動を行

う。場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えた上で、登場人物はどんなセリフを言うのか、どんなことを考えているのかなどを考える。叙述を根拠にセリフを書くことで、児童がその場面や登場人物の気持ちを具体的に考えることができるようにする。場面の挿絵が入ったワークシートには、絵本の挿絵も取り入れることで、より登場人物や場面の様子を想像できるようにする。

(3) 学びを深めるための工夫

・学習形態の工夫

スイミーの5つの場面から自分が気に入った場面を選び、同じ場面を選んだ児童同士がグループになって学習を進めるようにする。意図的に場を設定し、グループごとに自分たちが学びたいことに集中できる環境を整備する。また、必要感に応じてグループ同士で交流をする時間を設けることで、よりよい音読にするためにはどうしたらよいかを検討できるようにする。

・ICT の活用

グループごとに音読の練習をする際にはタブレットを活用し、動画撮影を行って記録を残すようにする。動画撮影は、Metamoji3 を使って児童が自分たちの音読をより細かく見返し、音読の工夫が聞き手に表現できているかを確認めさせる。また、教師が動画から児童の学びの状況を捉えることで、グループに支援を行うことができようにする。

7. 単元の指導と評価の計画

時	◆目標・学習内容	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	◎評価規準 <評価方法>
1	◆教材文を読み、感想をもつことができる。				
	・初発の感想を書く。 ・感想を書く際に好きな場面となぜその場面を選んだかが分かるように書く。				
2	◆学習後に友達と好きな場면을音読する工夫を考え、1年生に読み聞かせを行うという学習の見通しをもち、学習計画を立てることができる。				
	・初発の感想を交流し、いろいろな感想をもっている友達がいることに気付く。 ・単元全体の学習課題を確認し、学習計画を考える。			①	◎教材文を読んで感想を交流し、見通しをもって学習を進めていこうとしている。 <発言・記述>
3	◆一場面を読み、兄弟たちと楽しく暮らすスイミーの様子を読み取ることができる。				
	・時間や場所、登場人物を書き込むワークシートを用い、スイミーの特徴を読み取る。		①		◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 <発言・記述>
4	◆二場面を読み、ひとりぼっちになったスイミーの様子を読み取ることができる。				
	・前時に学習したことを掲示し、一場面との違いを感じ取り、スイミーのひとりぼっちになった悲しい気持ちを読み取る。		①		◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 <発言・記述>

5	◆三場面を読み、元気を取り戻していくスイミーの様子を読み取ることができる。				
	・比喻表現に着目し、スイミーが元気を取りもどしていく心情の変化を読み取る。	①			◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 ＜発言・記述＞
6	◆四場面を読み、新しい魚の兄弟たちを見付け、知恵を絞るスイミーの様子を読み取ることができる。				
	・考えをしばるスイミーの気持ちを読み取る。		①		◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 ＜発言・記述＞
7	◆五場面を読み、大きな魚のふりをして泳ぐことをみんなに教えるスイミーの様子を読み取ることができる。				
	・対比表現からスイミーと仲間たちが大きな魚を追い出したことを知り、スイミーたちの心情を読み取る。		①		◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 ＜発言・記述＞
8	◆「ふきのとう」の学習を振り返り、音読の仕方を確認し、好きな場面の音読の仕方を考えることができる。				
	・前の単元の学習を想起し、音読する際に工夫したいことやその効果について確認する。		②		◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもっている。 ＜発言・記述＞
9 本 時	◆想像した場面の様子や登場人物の行動を伝え合ったりするを通して、音読をすることができる。				
	・好きな場面に合った会話文を考え、読み方や動き方を工夫する。			②	◎場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、言葉を通じて他者と関わり合いながら、読み方がよりよくなるように粘り強く考えようとしている。 ＜発言・記述＞
10	◆他のグループの音読台本を読んだり、音読を聞き合ったりする活動を通して、考えた音読の仕方を修正することができる。				
	・グループごとに好きな場面を読み深め、想像した場面の様子が表せるような音読の仕方を考える。			②	◎場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、言葉を通じて他者と関わり合いながら、読み方がよりよくなるように粘り強く考えようとしている。 ＜発言・記述＞
11	◆1年生に音読を発表することができる。				
	・グループごとにお気に入りの場面を音読で発表する。			②	◎場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、言葉を通じて他者と関わり合いながら、読み方がよりよくなるように粘り強く考えようとしている。 ＜発言・記述＞

8. 本時の学習（9/11）

（1）ねらい

- ・好きな場面に合った会話文を考え、読み方や動き方を工夫して音読することができる。

(2) 展開

時間	○主な学習活動	※指導上の留意点 ★評価 () 評価方法
2分	<p>○前時の学習を振り返る。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">すきなばめんのようすがつたわるように、音読しよう。</div> <p>○学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで音読の工夫を考え、台本をつくる。 ・ つくった台本を生かして、音読練習をする。 ・ 他のグループと見合い、感想やアドバイスを伝え合う。 ・ ICT 機器を使い、音読を録音して、確認する。 </div>	<p>※グループと音読する場面を確認し、読み方や動き方の工夫による効果について確認する。</p> <p>※叙述をもとに、会話文を付けたしたり、読み方や動き方を考えたりすることを確認する。</p>
35分	<p>○グループで音読の工夫を考え、台本をつくる。</p> <p>・ 会話文の付け足しや、読み方、動き方の工夫を話し合い、ワークシートに書き込む。</p> <p>○つくった台本を生かして、音読練習を行う。</p> <p>・ グループごとに考えた工夫を確かめながら音読する。</p> <p>○2つのグループが互いに音読を発表し合い、感想やアドバイスを伝え合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>アドバイスのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読の工夫が叙述に沿っているか。 ・ 読む速さや声の大きさなどの音読スキルが効果的か。 ・ 気持ちをこめて、登場人物になりきっていたか。 ・ 会話文に合う動きか。 </div>	<p>※場面ごとに絵本のコピーを配布し、会話文を吹き出し型の付箋に書いて貼ることで、登場人物の気持ちを想像しやすくする。</p> <p>※グループ活動表を掲示し、自分たちのグループが、どの活動に取り組んでいるか可視化することで、見通しをもたせる。</p> <p>※机間指導を通して、音読の工夫が叙述に沿っていない場合は、教科書の前後の段落や挿絵、前時までのワークシートなどに戻って確かめるよう促す。</p> <p>※工夫した点と理由の説明をしてから発表する。</p> <p>※アドバイスのポイントを確かめる。</p> <p>★場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、言葉を通じて他者と関わり合いながら、読み方がよりよくなるように粘り強く考えようとしている。</p> <p>(発言・記述・録音)</p>
8分	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>・ 振り返りの観点「今日の学習でできたこと」や「次時にやってみたいこと」について確認し、振り返りカードに記入する。</p> <p>○次時の見通しをもつ。</p> <p>・ 音読の工夫を修正し、よりよくしていくことを伝える。</p>	<p>※意図的指名をして、振り返りカードに書いた内容を共有する。</p> <p>※次時の活動に見通しがもてるようにする。</p>